



e コミマップの作成風景

e コミュニティ・プラットフォーム・・・自治体
が持つ防災情報と、各種団体や個人が持つ情報を
インターネット上で誰もが自由に利用できるよう
にした参加型情報基盤

Q 防災科研 e コミマップ の活用を



山中 基充 議員

A 今後研究を進めていく

質問一 オープンデータと相互型GISの活用は。

二 e コミュニティ・プラットフォームについて見解は。

三 市役所の各部署が持つ情報活用と市民等との協働のためにe コミマップの活用を。

答弁一（市長） 情報の電子データ化の推進と情報提供体制を充実させ、利用者に応じた情報提供を行っていく。具体的には市のホームページのリニューアルに合わせて、試験的に統計データなどを活用しやすい形式で掲載する。

二 インターネットを使った参加型のシステムは、情報共有や活動支援で使われており、防災情報等を有効に活用すれば、市民にも行政にも利点があると認識している。今後、他の防災関連システムも含

質問 風水害にどう対処するか。

一 1時間に50ミリ程度の雨が数時間降り続いた時の市内の氾濫・危険箇所は。

二 危険箇所をなくす施策は。

答弁一（市長） 本市では、1時間に50ミリ以上の雨量が数時間降り続いた前例はなく、その時以前の

Q 市民の生命財産を守 ることが市政の役割 が充実を図る

高田 克彦 議員



降雨量や上流地区の状況で左右されるため、出水箇所及び範囲を想定することは難しい。

しかし、これまでの台風などの大雨による道路冠水箇所などは把握しており、集中降雨時には、過去に出水した場所やそのおそれがある場所を中心にパトロールを行

二 道路冠水を防ぐために雨水の貯留、浸透、排水を効率よく行うことが必要である。要所で雨水を貯留できるような整備を行い、緩やかに浸透させるとともに、道路側溝や水路の排水設備の整備を行うことが効果的である。また、土砂等の詰まりを防ぐため、清掃など適切な管理も必要であり、それらの整備を推進していく。

◎その他の質問

一 大規模な太陽光発電施設の設置可能性について

二 再び問う国保の県単一化と市国保税について



めて研究していきたい。

三 既存の地図を使ってハザードマップや危険箇所などの情報を重ね合わせることで、防災や防犯の活動に利用できるが、誰もが自由に作成し、公開できるため、その適否などについて十分な検討が必要である。今後、効果や課題などを研究していく。

◎その他の質問

一 PTA贈呈の記念品の違和感

二 自治会への加入促進

三 バランスシートの基準統一